

# 赤ちゃんは他者が視線を向けていたヒトを好む

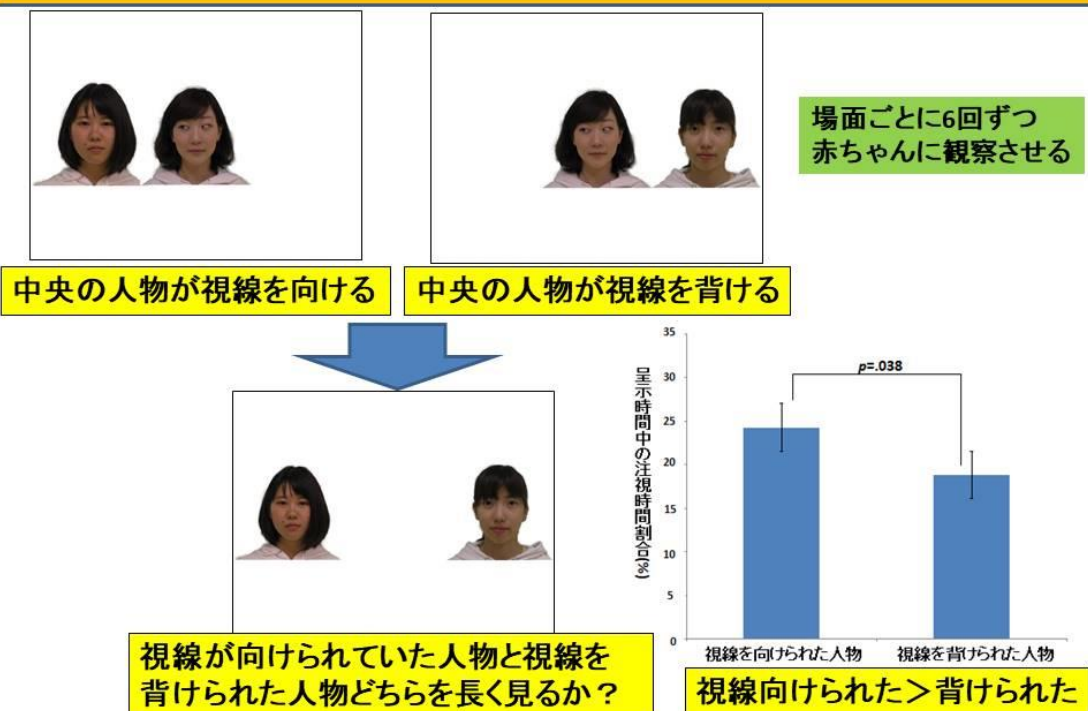
## — 視る・視られることの理解は発達の早期から始まっていた —

### 概要

赤ちゃんは生後間もない頃から他者の「視線」に対する感受性が高いことが、先行研究によって示されてきました。京都大学大学院文学研究科 板倉昭二 教授、石川光彦 同博士課程学生らの研究グループは、他者の視線が向けられていたことによって、その人物に対する選好がみられるかを生後 10 ヶ月の赤ちゃんを対象に検討しました。まず、ヒトが 2 名いる場面で、一方がもう一方の人物に対して視線を向ける場面と、反対に視線を背ける場面を赤ちゃんに見せました。その後、他者の視線が向けられていた人物の顔と視線を背けられていた人物の顔を同時に提示して、どちらの顔を赤ちゃんが長く見るか調べました。その結果、赤ちゃんは他者の視線が向けられていた人物の顔を長く見ており、他者の視線が向けられることで、視線を向けられていた人物に対する赤ちゃんの選好が高まったことが示されました。本研究によって、ヒトの視線が社会的関係において持つ意味合いを、発達の早期から理解している可能性が示唆されます。

本成果は、2018 年 8 月 13 日にスイスの国際学術誌「Frontiers in Psychology」にオンライン掲載されました。

## 赤ちゃんは他者の視線が向けられる人物を好むのか？



## 1. 背景

赤ちゃんが他者の視線情報を学習に用いていることは、多くの研究で示されてきました。しかし、先行研究では、他者が物体に視線を向けている場面を赤ちゃんが見ているときの学習の促進効果などについては検討してききましたが、他者の視線が赤ちゃんの社会的選好に与える影響についてはあまり言及していませんでした。

日常の場面では、赤ちゃんはヒトがヒトに視線を向けている場面を観察することが多いため（例えば、母親が他のヒトと会ったときなど）、私たちは、他者の視線が赤ちゃんの社会的場面に対する認知に影響しているかどうか調査することにしました。

## 2. 研究手法・成果

本研究では、生後 10 ヶ月の赤ちゃん 19 名の注視行動データを分析に使用しました。赤ちゃんには、ヒトが 2 名いる場面で、一方がもう一方の人物に対して視線を向ける場面と、反対に視線を背ける場面を見せました。その後、他者の視線が向けられていた人物の顔と視線を背けられていた人物の顔を同時に提示して、どちらの顔を赤ちゃんが長く見るか調べました。その結果、赤ちゃんは他者に視線を向けられていた人物の顔を長く見ていることが分かりました。他者の視線が向けられていたことが、赤ちゃんの選好に影響していたと考えられます。このことは、視線が向けられることはポジティブなことであるというような、ヒトの視線が社会的関係においてもつ意味合いを、発達の早期から理解している可能性を示唆します。

## 3. 波及効果、今後の予定

本研究から、視線の方向はヒトの社会的関係の理解において重要な役割をもち、赤ちゃん期から大人の視線情報を使用して他者に対する評価を行っている可能性が示唆されました。今後は、他者の視線情報がどのようなメカニズムによって赤ちゃんの認知処理に影響を与えているのか解明していく予定です。

### <論文タイトルと著者>

タイトル：Observing others' gaze direction affects infants' preference for looking at gazing- or gazed-at faces (他者の視線方向を観察することは見る・視られる人物の顔に対する赤ちゃんの選好に影響する)

著者：Mitsuhiko Ishikawa and Shoji Itakura

掲載誌：Frontiers in Psychology DOI：10.3389/fpsyg.2018.01503